

会場【体育館】 第6学年 音楽科学習指導案	豊かな表現を求めて 日 時：平成23年11月22日（火）第2校時 指導者：広島市立大芝小学校 T1 教諭 大坪 博司 T2 教諭 秋野 千鶴 児 童：第6学年3組 30名
-----------------------------	--

1 題材について

【題材の目標】

- 音楽の仕組みを生かして、表情豊かに演奏する。

【学習指導要領】2内容A表現（2）イ（3）イ

〔共通事項〕

(1)ア(イ)

問いと答え リズム

【教材】「ス ワンダフル」（ガーシュイン 作曲 終 ゆきえ 編曲）

【題材について】

本題材では、〔共通事項〕の問いと答えやリズムを学習内容として焦点を当て、より豊かな表現になるように演奏を工夫することをねらいとしている。その一つの方法として、アド・リブの基礎となるリズムづくりも学習活動に取り入れる。

教材として扱う「ス ワンダフル」は、児童が裏拍やスウィングのリズムを感じ取りやすい楽曲である。また曲全体を通して主旋律と対旋律が交互に出てきており、パートとパートの掛け合いのおもしろさを存分に感じ取ることができる教材である。特に後半の「イ」の部分は、同じ高さの「ミ」の音が同じリズムで続くフレーズになっており、リズムを変化させたアド・リブを含む豊かな表現を求める題材としてふさわしい。

【児童の実態】

本学級の児童は、自分の意見を積極的に発表することができ、音楽活動にも意欲的に取り組んでいる。

5月に取り組んだ「マルセリーノの歌」の合奏の学習では、楽曲を特徴付ける長調や短調の響きの変化を感じ取りながら、強弱や速度を工夫し、思いや意図をもって演奏することができた。この学習を通して、思いや意図をもち、表現を工夫して演奏することに関心が高まってきている。

また、積極的に意見を出し合う雰囲気が学級にあり、児童がより豊かな表現を求めて主体的に取り組んでいくことが期待できる。

【指導に当たって】

○【共通事項】問いと答え、リズムについて

- ・ 「ス ワンダフル」の範奏CDを聴いたり、リコーダーや歌で会話ゲームをしたりしながら、旋律による問いと答えに慣れるようにしていく。またその中で2拍子のスウィングのリズムをT1やT2が演奏したり、強弱などの工夫の仕方を模範で示したりすることで、自然に音楽の流れにのって、答えを返すことができるように働きかける。これらを踏まえて、「ス ワンダフル」の合奏では、問いと答えに焦点を当てて、スウィングのリズムを意識しながら演奏表現の工夫を行うことで、ジャズの楽しさに気付くと共に、より豊かな表現を求める姿勢が育つように指導していきたい。

○ かかわりの場の設定について

- ・ 各パートを合わせる学習活動では、ペアで教え合ったり、パートリーダーが中心となって少人数で合わせたりしながら、児童同士で協力し合える場を設定する。また本校で行っている担任とのティームティーチングを生かし、困っているパートリーダーやパートの支援をきめ細やかに行っていく。
- ・ 演奏表現を工夫する学習では、一人一人の意見を大切にするとともに、実際に演奏して試してみたり、グループごとに互いの工夫を聴き合ったりする活動を通して、友達の考えに共感したり、自分の考えをさらに深めたりしていくことのできる場を設定する。

○ 言語活動について

- ・ 表現の仕方を話し合う場では、より豊かな演奏になるための工夫をしていくことをめあてとし、スウィングの感覚を大切にしながら、音楽を形づくっている要素を根拠に発言をするよう促す。

2 学習指導計画

【既習事項】

- ① 時 期 第6学年5月
 ② 題材名 「長調や短調の響きを感じ取って自分たちの思いや意図を表現しよう」
 ③ 題材の目標 長調や短調の響きの変化を感じ取り、自分の思いや意図をもって表現する。

(全6時間)

時	教材	学習活動 (○) 学習内容 (・)	具体的評価規準 (評価方法)
第1時	「スワンダフル」	○ ジャズの特徴やスウィングのリズムを感じ取る。 ・ リズム ・ 問いと答え ○ 「スワンダフル」の楽曲の感じをつかみ、リコーダーで主旋律を演奏する。 ・ 拍の流れ	【音楽への関心・意欲・態度】 ジャズの独特なリズム等に興味・関心を持ち、進んで聴こうとしたり、演奏したりしようとしている。 (発言やつぶやきの内容、活動の観察、ワークシート)
第2時		○ 担当パートを決め、パートごとに演奏する。 ・ 各パートの特徴 ・ リズム	【音楽表現の技能】 演奏する楽器の特徴を生かして旋律楽器や打楽器を演奏している。 (演奏の聴取)
第3時		○ 拍に合わせて合奏する。 ・ 拍の流れ	【音楽表現の技能】 友達の楽器の音や全体の響きを聴きながら、自分の音を友達の音と調和させて合奏をしている。 (演奏の聴取)
第4時		○ 曲想にふさわしい表現を工夫して合奏する。 ・ 音量バランス ・ 強弱の変化	【音楽表現の創意工夫】 各パートの特徴を感じ取りながら、曲想にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 (発言やつぶやきの内容、演奏の聴取、ワークシート)
第5時 (本時)		○ パートごとに「イ」の答えの旋律を工夫して演奏する。 ・ リズム	【音楽表現の技能】 音楽の仕組みを生かして意図をもって表現したり、曲想を生かして演奏したりしている。 (発言やつぶやきの内容、演奏の聴取、ワークシート)
第6時		○ 工夫した部分を生かして、自分たちの「スワンダフル」を合奏する。 ・ 反復 ・ 問いと答え	【音楽表現の技能】 曲想にふさわしい表現で、表情豊かに演奏している。 (演奏の聴取)

【これからの学習】

- ① 時 期 第6学年2月
 ② 題材名 「音楽に思いをこめて」
 ③ 題材の目標 これまで学習してきたことを思い出し、聴く人に自分たちの思いがとどくように演奏を工夫する。

3 本時の目標 (5/6時間)

☆ 音楽の仕組みを生かして意図をもって表現したり、曲想を生かして演奏したりすることができる。

4 授業の視点

- ・ 児童がスウィングを感じながら、リズムを工夫して演奏することができていたか。
- ・ 児童は音楽を形づくっている要素を意識した言語活動を通して、演奏の工夫ができていたか。

5 本時の展開（5／6時間）

学習活動	教師の働きかけ(指示・説明・発問等) 予想される児童の姿（・）	教師の支援（○） 個への支援（※）	評価（☆） （評価方法）
1 ウォーミングアップをする。	指 問いと答えゲームをしましょう。 ・ 教師と異なるリズムを返す。 ・ 教師のリズムを真似て返す。	○ 裏拍で手拍子をし、2拍子を感じながら歌ったり、演奏したりするように声かけをする。(T1)	
2 全員で合奏し、本時のめあてを確認する。	指 学習したことを思い出しながら、合奏しましょう。 ・ 主旋律が目立つ演奏 ・ 曲の構成を意識した、強弱の変化がある演奏	○ 前時に学習した内容を掲示し、確認する。(T1)	
「問い」を意識して、「答え」のリズムを変化させよう。			
3 パートごとに演奏を工夫する。	指 パートごとに分かれて、演奏の仕方を工夫しましょう。答えの部分を一人一人がつくってから、パートで1つの「答え」を演奏できるようにしておきましょう。 ・ 友達の演奏のよいところを認めている。	○ 演奏例を見せる。(T1・T2) ○ レ・ミ以外の音も、使ってよいことを伝える。 ※ 全員の意見が反映されるようパートリーダーに声かけをする。(T1・T2) ※ 自分の考えをもつことができないう児童には、友達の提案に感想を言ったり、一緒に演奏したりすることで演奏の感覚を共有するよう促す。(T1・T2)	☆ 音楽の仕組みを生かして意図をもって表現したり、曲想を生かして演奏したりしている。 【音楽表現の技能】 (発言やつぶやきの内容、演奏の聴取、ワークシート)
4 パートごとに発表し、その効果について意見交流する。	指 パートごとに発表して聴き合いましょう。 ・ 「スウィングのリズムにのって、演奏しよう。」	○ 児童の考えた演奏の効果を、全員で合奏をしながら感じとるようにする。(T1) ※ 演奏に困っている児童の演奏を補助したり、聴きとることが難しい児童に聴くポイントを伝えたりする。(T2)	
	発 各パートの演奏を聴いて、どんなところがよかったですか。 ・ 「スウィングのリズム感がよく出ていました。」 ・ 「答えのリズムが増えていて、問いよりもかなり盛り上がっていました。」 ・ 「マリンバの音色で演奏すると迫力がありました。」 ・ 「音を変えているところがあって	○ 工夫の仕方とその効果が見えるように、児童の考えを板書する。(T2)	

かかわりの場の設定

言語活動

